

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県北大東島

増産プロジェクトにおける令和4年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況

生産計画の
達成状況等

1 令和4年産の生産実績

	収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
H27年産実績	23	63	285	371	7,247	3,957	3,406	3,734	1,633	2,507	9,701	13,842
H28年産実績	43	77	256	376	10,733	6,675	6,769	7,204	4,626	5,120	17,350	27,096
H29年産実績	50	57	290	397	8,923	4,484	4,675	5,181	4,453	2,576	13,549	20,578
H30年産実績	25	54	310	388	9,145	5,908	5,454	5,752	2,252	3,195	16,882	22,329
R元年産実績	35	64	293	392	11,753	6,726	6,989	7,374	4,145	4,320	20,477	28,942
R2年産実績	38	54	312	404	10,718	5,596	6,622	6,866	4,035	3,041	20,648	27,725
R3年産実績	27	46	318	391	9,728	6,196	5,560	5,927	2,673	2,821	17,682	23,176
R4年増産計画	50	60	290	400	7,800	5,200	5,900	6,130	3,900	3,120	17,110	24,520
R4年増産実績	38	67	301	406	9,778	4,680	5,521	5,774	3,688	3,131	16,622	23,441
(対計画比%)	(76.0)	(111.7)	(103.8)	(101.5)	(125.4)	(90.0)	(93.6)	(94.2)	(94.6)	(100.4)	(97.1)	(95.6)
(対前年比%)	(138.3)	(147.2)	(94.6)	(103.8)	(100.5)	(75.5)	(99.3)	(97.4)	(138.0)	(111.0)	(94.0)	(101.1)
R7年産増産計画	50	60	300	410	8,000	5,000	6,000	6,100	4,000	3,000	18,000	25,000

2 その他指標の動向 令和3年産→令和4年産

・株出栽培の割合	81.3%	→	74.1%	・さとうきび作農家戸数	98戸	→	103戸
・平均糖度	15.4度	→	13.8度				

<p>増産目標に対する位置づけ</p>	<p>令和4年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった</p> <table border="1" data-bbox="521 220 1153 319"> <thead> <tr> <th></th> <th>収穫面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(計画)</td> <td>400ha</td> <td>6,130kg/10a</td> <td>24,520t</td> </tr> <tr> <td>(実績)</td> <td>406ha</td> <td>5,774kg/10a</td> <td>23,441t</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和4/5年産の当初の生産目標は、収穫面積400ha、単収6.1t/10a、生産量24,520tを計画しており、実績として収穫面積は405.6ha、単収5.7t/a、生産量23,441tと生産量は目標を下回った。今期は、殺虫防除の為の取り組みができたことや初期の生育が比較的順調であったため計画通りの生産は見込めるとの期待があった。しかし、8月31日の台風11号、9月17日の台風14号と2度にわたり被害を受けたことで計画よりも減産となったがメイチュウ等の病害虫対策が適期に行われたことで大幅な減収にはならなかったと考えられる。今期の取組を継続し、引き続き単収向上に努め増プロに掲げる生産目標を目指す。</p>		収穫面積	単収	生産量	(計画)	400ha	6,130kg/10a	24,520t	(実績)	406ha	5,774kg/10a	23,441t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	400ha	6,130kg/10a	24,520t										
(実績)	406ha	5,774kg/10a	23,441t										
<p>課題</p>	<p>① 適期の植え付け、適期の肥培管理を引き続き推進する必要がある ② 収穫・肥培管理作業を行うオペレーターが不足しており、オペレーターの育成が必要である ③ 畜産農家がないため、製糖工場からのバカス堆肥以外の堆肥投入は農家にとってコスト高である</p>												
<p>令和5年産における取組方針</p>	<p>主なさとうきび生産振興策として</p> <p>① 受託組織等との連携を図り、適期の植え付け、肥培管理を実施する ② 作業オペレータの技術向上と担い手の育成に取り組んで行く ③ 事業等を活用した有機物の投入を検討し土づくりを推進する ④ 作業オペレーターの確保を検討する</p>												

(1) 経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																												
<p>① 効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者に対し期間が満了した農家に対して再認定の申請を促した <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="488 352 1397 528"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>46</td> <td>47</td> <td>38</td> <td>30</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>38</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>農業法人</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進んでおり、担い手が減少している 		H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	認定農業者	46	47	38	30	20	30	38	43	農業法人	0	0	0	0	0	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中核的農業者などを中心に担い手の育成を図る 																																	
	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4																																																						
認定農業者	46	47	38	30	20	30	38	43																																																						
農業法人	0	0	0	0	0	0	0	0																																																						
<p>② 農業共済制度への加入促進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さとうきび共済及び収入保険の普及や加入促進を継続的に行った ・共済掛金の一部補助を行うことで農家負担を軽減するなどして、加入促進を図った <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="488 804 1480 1222"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26 (27年産)</th> <th>H27 (28年産)</th> <th>H28 (29年産)</th> <th>H29 (30年産)</th> <th>H30 (R元年産)</th> <th>R元 (R2年産)</th> <th>R2 (R3年産)</th> <th>R3 (R4年産)</th> <th>R4 (R5年産)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加入戸数 (戸)</td> <td>97</td> <td>98</td> <td>95</td> <td>62</td> <td>54</td> <td>42</td> <td>28</td> <td>25</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>戸数引受率 (%)</td> <td>85.1</td> <td>88.3</td> <td>88.8</td> <td>63.3</td> <td>51.9</td> <td>42.0</td> <td>27.7</td> <td>41.0</td> <td>21.8</td> </tr> <tr> <td>引受面積 (ha)</td> <td>328</td> <td>327</td> <td>352</td> <td>217</td> <td>202</td> <td>156</td> <td>102</td> <td>91</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>面積引受率 (%)</td> <td>88.4</td> <td>87.1</td> <td>88.6</td> <td>56.0</td> <td>51.4</td> <td>38.5</td> <td>26.2</td> <td>45.0</td> <td>20.0</td> </tr> <tr> <td>共済金額 (千円)</td> <td>217,579</td> <td>223,138</td> <td>225,691</td> <td>143,267</td> <td>146,176</td> <td>127,199</td> <td>97,304</td> <td>73,841</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">注) R4、R5 年産の数値については概算値</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要性を感じていない農家に対する普及をどのように行うか 		H26 (27年産)	H27 (28年産)	H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	加入戸数 (戸)	97	98	95	62	54	42	28	25	22	戸数引受率 (%)	85.1	88.3	88.8	63.3	51.9	42.0	27.7	41.0	21.8	引受面積 (ha)	328	327	352	217	202	156	102	91	78	面積引受率 (%)	88.4	87.1	88.6	56.0	51.4	38.5	26.2	45.0	20.0	共済金額 (千円)	217,579	223,138	225,691	143,267	146,176	127,199	97,304	73,841	-	<ul style="list-style-type: none"> ・全農家が加入し、計画的な農業経営を行えるよう推進する ・引き続き共済掛金の一部助成を行い、加入推進に取り組む
	H26 (27年産)	H27 (28年産)	H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)																																																					
加入戸数 (戸)	97	98	95	62	54	42	28	25	22																																																					
戸数引受率 (%)	85.1	88.3	88.8	63.3	51.9	42.0	27.7	41.0	21.8																																																					
引受面積 (ha)	328	327	352	217	202	156	102	91	78																																																					
面積引受率 (%)	88.4	87.1	88.6	56.0	51.4	38.5	26.2	45.0	20.0																																																					
共済金額 (千円)	217,579	223,138	225,691	143,267	146,176	127,199	97,304	73,841	-																																																					

(2) 生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																				
<p>① 気象災害に強い生産基盤の整備</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑灌整備の実施 <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="488 360 1397 571"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27 実績</th> <th>H28 実績</th> <th>H29 実績</th> <th>H30 実績</th> <th>R元 実績</th> <th>R2 実績</th> <th>R3 実績</th> <th>R4 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほ場整備率</td> <td>93.1</td> <td>93.1</td> <td>93.1</td> <td>93.1</td> <td>93.1</td> <td>93.1</td> <td>93.1</td> <td>93.1</td> </tr> <tr> <td>水源整備率</td> <td>63.7</td> <td>63.7</td> <td>63.7</td> <td>63.7</td> <td>63.7</td> <td>63.7</td> <td>63.7</td> <td>63.7</td> </tr> <tr> <td>畑地かんがい整備率</td> <td>39.8</td> <td>40.8</td> <td>51.3</td> <td>58.6</td> <td>70.6</td> <td>81.4</td> <td>86.3</td> <td>87.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防風林の効果および必要性について農家に対し、どう周知して行くか ・異常気象による予期せぬ干ばつ時の貯水量の確保 		H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 見込	ほ場整備率	93.1	93.1	93.1	93.1	93.1	93.1	93.1	93.1	水源整備率	63.7	63.7	63.7	63.7	63.7	63.7	63.7	63.7	畑地かんがい整備率	39.8	40.8	51.3	58.6	70.6	81.4	86.3	87.3	<p>・苗の生産やより効果の高い種類の苗を検討する</p> <p>・各貯水池間の連結して、地域全体の灌水が行えるよう整備を検討する</p> <p>・農業用水を確保するための機械導入を検討する</p>
	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 見込																														
ほ場整備率	93.1	93.1	93.1	93.1	93.1	93.1	93.1	93.1																														
水源整備率	63.7	63.7	63.7	63.7	63.7	63.7	63.7	63.7																														
畑地かんがい整備率	39.8	40.8	51.3	58.6	70.6	81.4	86.3	87.3																														
<p>② 機械化一貫体系の確立</p>	<p>【実施した取組】</p> <p>【目標の達成状況】 (単位:台、ha、%)</p> <table border="1" data-bbox="488 775 1397 1023"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハーベスタ 稼働台数</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫面積</td> <td>371</td> <td>376</td> <td>397</td> <td>388</td> <td>393</td> <td>404</td> <td>391</td> <td>406</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫率(面積)</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫機械の老朽化等により修理が多発し、収穫に支障がでている ・収穫・肥培管理作業を行うオペレーターが不足しており、オペレーターの確保・育成が必要である 		H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	ハーベスタ 稼働台数	8	8	8	8	7	8	8	8	ハーベスタ 収穫面積	371	376	397	388	393	404	391	406	ハーベスタ 収穫率(面積)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	<p>・収穫および株出し管理、植付け等の作業を効率的に実施するため、作業委託組織との連携を強化する</p> <p>・収穫機械の導入を検討する</p>
	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4																														
ハーベスタ 稼働台数	8	8	8	8	7	8	8	8																														
ハーベスタ 収穫面積	371	376	397	388	393	404	391	406																														
ハーベスタ 収穫率(面積)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0																														
<p>③ 地力の増進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製糖副産物を活用した堆肥の散布を推進した ・生産性向上支援事業を利用して堆肥(夏植用)および鶏糞を導入した ・土壌分析を実施した(島内全域を対象として継続的に実施していく)実績(78地点・59ha) ・土層改良を実施した(島内全域を対象として継続的に実施していく) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産農家がないため、製糖工場からのバカス堆肥以外の堆肥投入は農家にとってコスト高である 	<p>・製糖副産物の散布面積を拡大できるよう他の材料を組み合わせるなどして堆肥の増産に取り組んでいく</p> <p>・事業等を活用し、有機物の投入ができるよう取り組む</p>																																				

(3) 技術対策

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																																																	
①病害虫対策	<ul style="list-style-type: none"> ・アワヨトウによる被害を抑えるため、事業を利用し適期の散布を実施した ・イネヨトウ及びツマジロクサヨトウ等の予防について、適期の散布及び注意喚起を行った <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネヨトウ、ガイダーなどの病害虫防除を徹底する必要がある ・アワヨトウ、アザミウマの被害が散見されるので防除等、対策を行う必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生予察の情報強化による早期防除対策を実施する ・さとうきび生産性向上緊急支援事業を活用した病害虫防除を実施する 																																																																																	
②優良品種の選択・普及	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種苗管理センターからの無病健全の種苗を導入し、供給と普及に取り組んだ <table border="1" data-bbox="488 491 1397 839"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27 (実績)</th> <th>H28 (実績)</th> <th>H29 (実績)</th> <th>H30 (実績)</th> <th>R元 (実績)</th> <th>R2 (実績)</th> <th>R3 (実績)</th> <th>R4 (実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>F161</td> <td>21.8</td> <td>19.7</td> <td>13.1</td> <td>9.0</td> <td>5.6</td> <td>2.7</td> <td>1.3</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>農林15号</td> <td>4.9</td> <td>4.0</td> <td>2.8</td> <td>1.5</td> <td>0.8</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>農林19号</td> <td>1.1</td> <td>1.3</td> <td>0.8</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>農林22号</td> <td>10.2</td> <td>6.1</td> <td>5.5</td> <td>4.9</td> <td>2.6</td> <td>1.7</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>農林26号</td> <td>5.9</td> <td>8.8</td> <td>8.1</td> <td>7.7</td> <td>9.2</td> <td>8.4</td> <td>8.7</td> <td>10.3</td> </tr> <tr> <td>農林27号</td> <td>0.5</td> <td>2.9</td> <td>5.8</td> <td>9.3</td> <td>15.1</td> <td>23.5</td> <td>30.0</td> <td>39.2</td> </tr> <tr> <td>農林28号</td> <td>30.7</td> <td>27.1</td> <td>19.9</td> <td>15.7</td> <td>9.2</td> <td>6.7</td> <td>4.6</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>農林29号</td> <td>0.8</td> <td>1.6</td> <td>3.0</td> <td>6.2</td> <td>8.9</td> <td>9.7</td> <td>10.2</td> <td>9.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適応性品種の選定に係る取り組みの強化が必要である 		H27 (実績)	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	F161	21.8	19.7	13.1	9.0	5.6	2.7	1.3	0.5	農林15号	4.9	4.0	2.8	1.5	0.8	-	-	-	農林19号	1.1	1.3	0.8	-	-	-	-	-	農林22号	10.2	6.1	5.5	4.9	2.6	1.7	0.5	0.5	農林26号	5.9	8.8	8.1	7.7	9.2	8.4	8.7	10.3	農林27号	0.5	2.9	5.8	9.3	15.1	23.5	30.0	39.2	農林28号	30.7	27.1	19.9	15.7	9.2	6.7	4.6	2.5	農林29号	0.8	1.6	3.0	6.2	8.9	9.7	10.2	9.6	<ul style="list-style-type: none"> ・島地域の特性にあった優良品種の普及に努める
	H27 (実績)	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)																																																																											
F161	21.8	19.7	13.1	9.0	5.6	2.7	1.3	0.5																																																																											
農林15号	4.9	4.0	2.8	1.5	0.8	-	-	-																																																																											
農林19号	1.1	1.3	0.8	-	-	-	-	-																																																																											
農林22号	10.2	6.1	5.5	4.9	2.6	1.7	0.5	0.5																																																																											
農林26号	5.9	8.8	8.1	7.7	9.2	8.4	8.7	10.3																																																																											
農林27号	0.5	2.9	5.8	9.3	15.1	23.5	30.0	39.2																																																																											
農林28号	30.7	27.1	19.9	15.7	9.2	6.7	4.6	2.5																																																																											
農林29号	0.8	1.6	3.0	6.2	8.9	9.7	10.2	9.6																																																																											
③栽培技術の普及等	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期(適期)植え付け、肥培管理の周知徹底を実施した <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅雨明け以降の干ばつ対策として灌水を推奨する必要がある ・適期の植え付け、適期の肥培管理を引き続き推進する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・灌水を推奨することで収量増を図る 																																																																																	